

歯学医療教育・研究のグローバル化に関するシンポジウム報告

A report of international symposium of globalization in dental medical education and research

植田 紘貴

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
発達系歯科センター 矯正歯科

はじめに

本邦では少子高齢化の進行により、昨年度、65歳以上の老年人口が初めて25パーセントを突破した。2012年に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、今後1年ごとに約1ポイントずつ老年人口の割合が増加することが予想されている。高齢者の割合の増加は摂食嚥下機能の低下や入院患者に対する周術期の管理医療、在宅介護医療などの場面で歯科医師が活躍すべき領域はますます増加することが予想される。このため、歯科医師の養成機関である歯学部においては、これらの新たなニーズに十分に対応できる歯科医師の養成が急務であると考えられる。そのためには、医学的な基礎知識を十分に備え、かつ、歯科医師以外の職種と十分なコミュニケーションをとる多職種連携の考えを備えた歯科医師の養成が必要であると考えられる。

医療教育の国際化の波は既に医学部における医学教育に第一波として訪れており、教育方法やカリキュラムの改善等がなされつつある。そのような流れの中で、歯学部における歯学教育においても近い将来、このような医療教育のグローバル化の波が訪れることが想定される。そこで、本稿では、平成25年9月23日(月)に岡山大学において開催された第3回岡山医療教育・研究国際シンポジウムに参加した概要と、関連した施策の一部について報告したい。

医療教育・研究の国際化に関するシンポジウム

シンポジウムでは、歯科医学教育の現状と国際化の観点でアジアの主要歯学部から歯学教育と研究に関するリーダーが参加し、歯科医学教育のグローバル化と医科歯科連携について議論が行われた。参加大学は韓国 ソウル大学、モンゴル モンゴル医科大学、中国 大

連医科大学、中国医科大学、香港 香港大学、台湾 台北医科大学、ベトナム ハノイ大学、ハイフォン医科大学、インドネシア ハサヌディン大学、シンガポール シンガポール大学、タイ チュラロンコン大学、マレーシア マレーシア国立大学、ブラジル サンパウロ大、カナダ トロント大、アメリカルイジアナ州立大であった。シンポジウムのテーマは、歯学教育の国際認証、医療支援歯科、在宅介護歯科教育への道筋、歯学研究の未来、の四つを軸にシンポジストによる講演が行われた。

歯学教育の国際認証に関して、歯学教育における国際認証評価の現状と戦略が紹介された。各国の認証評価機関の代表例として、イギリスの「General Dental Council (GDC)」、アメリカの「Commission on Dental Accreditation (CODA)」の紹介がなされた。日本では現在2チームに分かれて、各5名ずつ、計10名の評価委員会を立ち上げた状況にあり、今後トライアルを行い、日本の歯学教育の認証制度が今後導入予定であることが紹介された。歯学教育の分野別評価として、高度専門人材の育成に向けて分野別保証の構築・充実に向けた取り組みを促進する(平成25年6月閣議決定：大学および高等専門学校)、歯学教育の改善充実に関する調査研究協力者会議一次報告(平成21年1月)として歯学教育の質を保証するための第三者評価の仕組みの導入について検討されていること、大学改革推進等補助金事業である「医学歯学教育認証制度の実施」において、日本における国際標準の医学歯学教育認証制度の基盤を構築することが検討されていることが紹介された。

歯学教育の質保証と医科歯科連携教育に関しては、歯学教育の改善充実にために、歯学教育モデルコアカリキュラム改訂(平成23年3月)のポイントとして、

診療参加型実習における一般目標、到達目標が明確化されたこと、口腔と全身の関わり、高齢者や全身疾患を有する患者への対応、予防歯学、社会歯学など、医学・医療との連携を含めた幅広い教育の充実について紹介された。国内の歯学部・歯科大学の診療参加型臨床実習の充実の状況として、昨年度と比較して多くの大学が評価方法の改善や臨床実習時間数が増加していることや、特定のテーマに特化したカリキュラム構築に取り組んでいること、今後の課題として、国内の歯学部・歯科大学の附属病院における協力患者の確保が課題であることが紹介された。

医療教育や研究活動の国際化に関する国の施策について

平成25年5月に公表された国の教育再生実行会議の「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」では、グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるために次のような提言がなされた。大学は、「教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成することなど、大学の特色・方針や教育研究分野、学生等の多様性を踏まえた効果的な取組を進めることや、優れた外国人留学生を積極的に受け入れることにより、大学の国際化を促し、教育・研究力を向上させ、日本の学術・文化を世界に広める」ことが提言されている。さらに、国はこれらの国際化を推進するために、「海外の優秀な研究者との国際共同研究を質・量ともに充実したりできるよう、海外のトップクラスの大学と日本の大学との学科・学部・大学院の共同設置や、ジョイント・ディグリー（複数の大学の共同による学修プログラム修了者に対して授与される共同で単一の学位）の提供など現行制度を超えた取組が可能となるような制度面・財政面の環境整備を行う」ことが提言された。そのために、大学等は「外国の大学や現地企業等との連携により海外キャンパスの設置を進め、海外における魅力ある日本の教育プログラムの実施を図る」ことが提言されている。また、国は、「日本の大学等の積極的な海外展開による国際連携を拡大するため、制度面・財政面の環境整備を行う」ことや、外国人教員の積極採用、海外大学との連携、英語による授業のみで卒業可能な学位課程の拡充など、国際化を断行する大学（「スーパーグローバル大学」（仮称））を重点的に支援することなども提言された。

平成25年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、基本施策として、「外国語教育、双方向の

留学生交流・国際交流、大学等の国際化など、グローバル人材育成に向けた取組の強化」のために、大学においては、「大学等の国際化のための取組（秋季入学に向けた環境整備、海外大学との国際的な教育連携等）への支援、国際的な高等教育の質保証（単位の相互認定、適切な成績評価等）の体制や基盤の強化等を実施する」こと等が示された。高等教育機関の国際化のための取組への支援として、「グローバル社会に対応するため、我が国の大学等の徹底した国際化を広く促進し、国際通用性の向上を図る」こと、特に、「国際通用性の高い教育組織・環境を備え、国際競争力を有する拠点大学を形成するため、英語での授業の実施、外国人や海外で学位を取得した若手の積極的採用などに取り組む大学への重点的な支援を行う」こと、また、「国際化や多様な体験活動の促進に資する秋季入学について、各大学における検討状況を踏まえた環境整備に係る支援を行う」こと、さらに、「海外大学との共同プログラムの構築等の多様な連携を促進する」こと等が示されている。さらに、「大学・短期大学、高等専門学校、専門学校等における職業教育の質を保証し、国際的な通用性を確保するため、学修成果を海外で証明できる仕組みの構築や、海外の学校との共同プログラムの実施等を行う」こと、「国際的な高等教育の質保証の体制や基盤の強化」や「高等教育の質保証に関する国際機関の取組や国際的な共通枠組み形成に貢献するため、我が国及び諸外国の高等教育制度に関する情報の収集・発信機能、国境を越えた教育連携・学修の評価等を担う体制を整備する」こと等の方針が示されている。

このように、大学・学部の教育・研究の国際化は、人的・物的・知的な交流がボーダレスに行われる現代において、社会の要請であるということもできる。その要請に応えるために、大学は国内だけでなく、世界の教育者や研究者を引き付けるような内容や実力を備える必要があると思われる。鹿児島大学歯学部においてもインドネシア、エアラング大学、モンゴル健康大学と交流協定が締結され、今後ますます国内外の部局の垣根を越えた融合的な研究が促進することが期待される。

おわりに

今回、歯学医療教育・研究のグローバル化に関するシンポジウムを通じて、日本の歯学医療教育の現状と今後予想されるグローバル化の進行に対応した歯学部のあるべき方等について、多くの萌芽を感じた。国立大

学法人化から10年を迎え、少子高齢化の進行や未曾有の大震災に代表される国内情勢の変化や国境を越えたグローバリズムの中で、これら国内外の変化に適応し、鹿児島大学の基本理念である「進取の精神」で先見的な取り組みをしていくことが今後ますます求められているように思われる。そのために、Plan（計画）、Do（実行）、Check（確認）、Action（行動）のPDCAサイクルで常に自己点検を行うことが重要であると考えられる。これらの教育改善活動を通じて、鹿児島大学歯学部の益々の発展を願ってやまない。

謝辞

鹿児島大学歯学部の教育改善活動の推進にご尽力頂いている教育委員会委員長の佐藤教授、臨床教育部会部会長の田口教授、前臨床教育部会部会長の中村教授、カリキュラム部会部会長の宮脇教授、ならびに教員の先生方、歯学教務係の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。